

釜石市民生児童委員協議会

(平成 26 年 10 月)

1 はじめに

釜石市は、岩手県の沿岸南部、三陸復興国立公園の中心部に位置し、世界三大漁場の一つ、北西太平洋漁場の一角をなす三陸漁場があります。

当市は、製鉄と漁業で栄え、数十年前は人口 9 万人余でしたが、新日本製鉄所本社の合理化、漁業規模の縮小等で年々人口が減少し、高齢化率も 34%を超え、限界集落や「買い物難民」の問題を抱える地区も生じています。

東日本大震災による死者・行方不明者は 1,141 人に上り、また、人口減少は現在も続いており、平成 26 年 7 月末現在の人口は 3 万 6,598 人です。

釜石市民生児童委員協議会（以下：民児協）の組織

8 地区 139 名（定数 147 名）

津波被害地区	<small>とうに</small> 唐丹（10 名）	<small>みなみかまいし</small> 南釜石（16 名）	<small>ひがしかまいし</small> 東釜石（22 名）	<small>うのすまい</small> 鵜住居（17 名）
津波無被害地区	<small>なかづま</small> 中妻（19 名）	<small>こさの</small> 小佐野（24 名）	<small>かっし</small> 甲子（18 名）	<small>くりはし</small> 栗橋（13 名）

※ 被災後に定数を調整した地区（南釜石、鵜住居、中妻、小佐野、甲子）

2 現状について

津波により多くの公共施設が使用不能となり、震災から 3 年半が経過した現在も再建の目処が立たない施設もあります。長年、当民児協が研修会等で使用していた市民文化会館は、本年 7 月から本格的な解体作業が始まり、それに代わる新たな施設の完成は来年度以降となる見込みです。

また、震災前から営業しているホテル等は、営業を再開してはいますが、大ホール等が復興工事関係者の長期間の宿泊部屋になり、会議等では利用できない状態が続き、全体研修会は震災後一度も開催できませんでした。

昨年 12 月の一斉改選で多くの新任委員が就任し、本年度はぜひ開催したいと企画していたところ、何とか市内のホテルを確保することができましたが、実施 3 か月以上前の問い合わせにもかかわらず、会場の使用時間の制限など条件がつかしました。

現在、当市では、新たな宿泊施設の建設が進んでおり、今後はホテルの利用制限等も少しずつ緩和されるものと期待しています。



解体作業が進む市民文化会館



市街地には宿泊施設が増え、震災前の街並とは大きく変化しています。



釜石駅の側にもホテルが建設されます。

3 おわりに～全国の委員へのメッセージ～

震災後、全国の民生委員・児童委員の皆様から、さまざまなご支援をいただいていることに重ねて感謝申し上げます。震災の影響で、活動が思うようにならないこともあります。委員相互に協力し合い、地域福祉の推進に向けて一つひとつ着実に進んでいきたいと思いを。

なお、当民児協では他県や他市との情報交換会の受け入れを行なっていますので、どうぞお気軽にお声掛けください。